



熊本県人権啓発キャラクター
「コツコロ」

どうして、差別はなくならないの？

結婚を報告した。「相手はどこの人？」と聞かれた。

どうしてそんなこと聞くの？でも、ちゃんと反論できなかった…

生まれた所や、住んでいる場所で差別するのはおかしいよね。

そう言い切れる自分になりたい。

差別のバトンは渡さない 部落差別を断ち切るのは私たち

- 目次**
- P1 人権同和問題講演会
 - P2 人権フェスティバル講演会 東ちづるさん/本橋馨さん
 - P3 ちがいを認め合う 多文化共生社会に向けて

- P4 お知らせ／人権メッセージ優秀作品
ウォルターズ人権教室
熊本県人権月間PRセンターのご紹介

令和7年度(2025年度) 人権同和問題講演会 「部落問題と向き合うわたしたち～結婚差別を乗り越えて～」

11月14日(金)に、滋賀県から石井眞澄さん・石井千晶さんご夫妻をお招きし、これまで直面した差別の実態やそれを乗り越えるまでの葛藤についてお話しいただきました。

千晶さんは、自身が被差別部落出身であることを明かし、中学・高校時代に繰り返し受けた差別の体験を率直に語られました。眞澄さんは、大学時代に被差別部落出身の女性との交際を家族に反対され、自分の親が差別意識を持っていたことに深い悲しみと怒りを感じた経験を話されました。

お二人の交際が始まってからも「結婚できるのか」という不安がある中、眞澄さんのご両親が人権学習や住職との対話を通じて差別意識を改められた経緯を紹介し、学習の場を広げる必要性を強調されました。

講演の最後には、眞澄さんの父親が「全ての人を同胞(ともだち)として接することが大切」と記した手紙が紹介され、「人は学びのタイミングで成長し、差別をなくす一歩を踏み出せる」との言葉が伝えられました。お二人の体験談は、差別の現実を直視しながらも、学びや仲間の支えによって人は変わり、社会も変わることができるという希望を示すものでした。

今回の講演を通じて、「差別をなくすためには、正しい知識を持ち、互いを尊重する社会を築くことが大切である」と改めて学ぶ機会となりました。



Uni-Voice

この情報誌には音声コードが印刷されています。



みつめる、みとめる
—みんな違う個性、みんな違う幸せ—

熊本県人権月間 11月10日～12月10日



熊本県人権フェスティバル

11月24日(月・休)に、ホテル熊本テルサにて「熊本県人権フェスティバル」を開催し、多くの方にご来場いただきました。



誰も排除しない『まぜこぜの社会』をめざして

俳優でタレントの東ちづるさんが、ご自身の『生きづらさ』を感じた経験、現在の活動に至るまで、そして活動を続ける思いをお話されました。その情熱と行動力は、聴講した私たちが「まぜこぜの社会」を考えるきっかけとなりました。

まずは自分のためだった

初めての仕事は、情報報道番組の司会だったという東さん。「そのときのディレク

ターの1人が、いろいろと教えてくれました。一番心に残っているのが、『報道と政治は困った人のためにある』ということです。これは当たり前のことですが、非常に大切なことです。要は人権を守り、尊重するために政治と報道はあるということを教えてもらったのです。私はいつか私を活用できるかもしれないと思ったのです。世のために人のためと思われがちなのですが、まずは自分のためでした。私が高齢者になったとき、患者になったとき…私は私のままでいられるだろうか。私は私の幸せを追及できるのだろうかということが漠然と不安だったのです。だから何かしたいと思っていたのだと思います。」

被災地の避難所の実態を知って

人と繋がることが苦手だったという東さん。2011年(平成23年)の東日本大震災で、被災地の避難所を知って、「一人がいい」など言ってはいられないと気づかされたそうです。「避難所は『まぜこぜ』で『多様性』。いつも知っている人が集うのではなく、知らない人たちも一緒にいます。メディアでは、力強く優しい言葉が溢れます。それも大事です。けれどもそこから取りこぼされる人たちもいるのです。頑張れない人もいるのです。普段から生きづらさを抱えている人たちが、社会が不安に陥った時により追い詰められているという現実がありました。皆で力を合わせることが難しいという現実を知り、なぜだろうと思いました。」と話されていました。

自分らしく生きていける社会へ

「実際、私はこの32年間トライアンドエラーです。
挑戦する、間違う、気づく。今もわからないこと

だらけ。その都度それでいきましょうと言って進んでいます。人権というと難しい感じがしますが、とても簡単なことです。すべての人が自分らしく生きられるということなのです。」



本橋馨と考えよう SNS の言葉、リテラシー

言葉のプロ・本橋馨さんに、SNSを利用するうえで大切にしてほしいことについてお話をいただきました。3つのSNSトラブル事例の寸劇を交え、演者の方や会場の皆様とともに考えていきました。

日頃の何気ない日常の中に、トラブルに巻き込まれることがあると考えさせられた時間でした。



リテラシーとは…
特定の分野における知識を理解し、それを適切に活用する能力のことです。

SNS トラブルのポイント

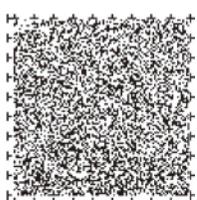
- ①短い言葉やスタンプは誤解を招きやすい
- ②表情や声色がわからないため感情が伝わりにくい
- ③グループLINEでは個人への励ましが逆効果になる場合もある
- ④「ウケる」「マジ」など若者言葉は文脈次第で悪意に見える

学びと教訓



SNSは便利なコミュニケーション手段である一方、短い言葉やスタンプ、軽いノリが誤解を生みやすく、相手を傷つけてしまうことがあります。特に文字だけのやり取りでは、表情や声色がわからぬいため感情が伝わりにくく、意図と受け取り方に大きなズレが生じることがあります。また、写真や動画の公開は本人の同意が不可欠です。プライバシー感覚は人によって異なるため、「自分は平気だから大丈夫」と考えるのではなく、相手がどう感じるかを尊重することが大切です。

励ましや謝罪など、相手の心に寄り添う必要がある場面では、SNSよりも直接会話や電話など、表情や声が伝わる方法を選ぶ方が効果的です。つまり、SNSを使う際には「相手の立場に立ってどう受け取られるか」を常に意識し、軽率な投稿や短文で済ませるのではなく、思いやりを持ったコミュニケーションを心がけることが重要です。



Uni-Voice

ちがいを認め合う 多文化共生社会に向けて

熊本県で暮らす外国人はどのくらいですか？

熊本県で暮らす外国人は30,825人と年々多くなっています。東南アジアの国・地域の方々を中心に増加しています。

背景としては、日本全国や県内で少子高齢化が進み、地域産業を支える人材として、日本語を学びながら企業で働いている方が増えているためです。



外国人が考える「3つの壁」とは？

外国人が日本で生活していくには、「3つの壁」があると言われています。

制度の壁

言葉・文化の壁

心の壁

在留資格により雇用の面で制限があったり、言葉や文化、習慣の違いから地域や職場で孤立感を感じたりと、生活するうえで不安や不便を感じことがあります。

場合によっては、先入観や偏見、価値観の違いに対する誤解などから、アパートへの入居や店舗への入店、施設の利用などを断わられることがあります。

熊本県の取組み

外国人との相互理解を深めるための啓発や交流の推進

外国人への偏見や差別の解消に向け、県民一人一人が、異なる民族・国・地域の文化等についての正しい知識と広い視野を持って外国人との相互理解を深めていくよう、啓発や交流を推進します。

多文化共生の地域づくり

行政、学校、企業・民間団体、県民などが、外国人の人権についての関心を高め、国籍や民族の違いを超えた、外国人が暮らしやすく、活動しやすい「多文化共生の地域づくり」を進めていきます。

出前講座を実施しています

熊本県の多文化共生の取組みや、外国人が県内で生活する上で困っていることなどについて、出前講座を実施しています。ご希望やご質問があれば、ご連絡ください。



熊本県外国人材と共生
推進本部（特設ページ）

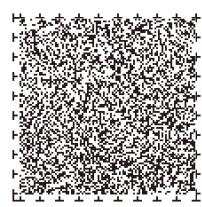
このページに関するお問い合わせ先

電話：096-333-2159（熊本県知事公室国際課）

メール：kokusai@pref.kumamoto.lg.jp



区長を対象とした多文化共生講座（大津町）



Uni-Voice

あなたの心に届きますように ～令和7年度(2025年度)人権メッセージ優秀作品～



小学生の部

やさしさは
みんなをつなぐマグネット



優秀賞受賞者の皆様

高校生の部

見た目、性格、考え方。
たくさん違うことがある。
その違いは、壁ではなく、扉かもしれない。
違いがあるからできることがある。

一般の部

となりにならんでもえへすすもう
むかいあってわかりあおう
せなかあわせでせかいをひろげよう
どれもだいじどれもすてき

中学生の部

「違う」と、隔たる線より
「個性」と、繋ぐ線を描こう



優秀作品
36作品掲載
デジタル作品集

令和7年度(2025年度)人権メッセージ募集事業には、多くの県民の皆様にご協力いただきありがとうございました。昨年度を大きく上回る3,501作品のご応募をいただきました。

厳選なる審査により、優秀作品36作品(優秀賞4点、佳作32点)を選定いたしましたが、応募していただいたすべての作品から、人を大切にしたい、自分を大切にしたいという温かい気持ちが伝わってきました。

熊本ヴォルターズ「ふれあい人権教室」開催

～外国人の人権や多様性についての関心と理解を深めよう～



VOLTTERS

さあ、
勝負！



今年度も、熊本県内の中学校で、熊本ヴォルターズ「ふれあい人権教室」を開催しました。スポーツを通して、ルール・モラルを守り自分と相手を尊重することは、人権を尊重する社会の形成と共通することに気づき、感謝する気持ちや努力することの大切さを学んでほしいという思いから実施しています。

熊本ヴォルターズ在籍の外国人選手の話を聞き、自分が生活している身近なところに「外国」を意識する場面が増えていること、日本人が「あたり前」と思っている見方や考え方について、外国から見たら特異なものと捉えられることがあることに気づかされました。そして、日本と外国の双方からの視点を持つことが大切であることを学びました。

令和7年度(2025年度) 熊本県人権月間PRセンターの皆様 ～一緒につくろう! 一人一人を大切にする熊本～

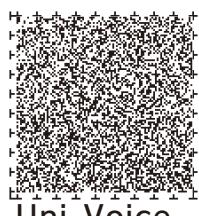


みつめる、みとめる
～みんな違う個性、みんな輝く幸せ～

PRセンターとは

企業・団体HPやSNSへの、人権月間にに関する記事や、シンボルマークの掲載、事務所へのポスター掲示等により、人権月間の周知にご協力いただいている企業・団体です。

有限会社六嘉企業 株式会社佐藤建設 株式会社SYSKENテクノ 社会福祉法人太陽福祉会水俣さくら保育園 株式会社南陽建設
株式会社ナトーハイシステムズ 株式会社ナトーコンピュータ 社会医療法人寿量会熊本機能病院 社会福祉法人勝縁会明和学園
松尾自動車工業株式会社 LumosEsthetiqueSalon LumosFitnessGym 有限会社主海建設 熊本県立豊野少年自然の家
アフタープラス2 株式会社熊本営業所 有限会社木下建設 日本赤十字社熊本県支部 有限会社天草ほけんサポート
辻産業株式会社 介護老人保健施設山鹿リハビリセンター 社会福祉法人愛光会 新電元熊本テクノリサーチ株式会社
社会福祉法人伸生紀 白鷺電気工業株式会社 学校法人玉名学園専修大学熊本玉名高等学校 株式会社ジェイコム九州
株式会社スパークリングル NEWSTEP 実行委員会 日本貨物鉄道株式会社九州支社九州南部支店 旭測量設計株式会社
リフェコ株式会社ゆめソーラーはません店 有限会社本田産業 社会福祉法人鶴亀会 不二高圧コンクリート株式会社
社会福祉法人日生会 JR九州エージェンシー株式会社熊本支店 (順不同・敬称略)



ホームページへのアクセスは
熊本県人権センター で **検索**

※右のQRコードを読み取ってもアクセスできます。



発行者：熊本県
所属：人権同和政策課
発行年度：令和7年度(2025年度)